

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
26

振興協議会だより

[発行日] 平成29年8月28日
[発行] 苗場山麓ジオパーク推進室
[お問い合わせ] 025-765-1600

ニュー・グリーンピア津南展望台完成

7月26日、ニュー・グリーンピア津南展望台がオープンしました。標高850mからの眺望は、遠くに妙高山、米山、弥彦山などを望む圧巻の大パノラマです。また、眼下にはジオサイトの石落しが広がり、苗場火山による溶岩の流れや笹葉峰を中心とする大崩落の様子を観察しながら、大地の活動・形成を体感することができます。

ホテルからリフトを利用して上り、カラマツ林の中の遊歩道を通り抜けるとウッドデッキが整備されています。苗場山と秋山郷の深い溪谷を望む前倉トドの展望台に続き、新しい展望台です。今年度は、さらに上野集落から河岸段丘、信濃川、中津川を望む展望台も計画中です。どの展望台も苗場山麓の雄大な大地とその履歴を全身で感じられるすばらしいものです。ぜひ、夏休みに帰省された親戚やお友達にご案内してはいかがでしょうか。



展望台からの眺め

津南ロータリークラブ様より案内看板のご寄贈



津南ロータリークラブ創立40周年記念事業として、ジオパークの案内看板をご寄贈いただきました。この看板は、ジオパークの拠点施設でもある農と縄文の体験実習館なじよもん敷地内に設置されました。

景観になじむ木柱と色合いの素敵な看板で、苗場山麓ジオパークの代表的な見どころが、写真とともに紹介されています。

夏休みでなじよもん体験に来られたたくさんのお客様が足をとめ、次の行き先の参考にされています。

心より感謝申し上げます。

卯之木集落 ジオパークバスツアー *卯之木・石沢さまより寄稿

戸数70軒ほどの卯之木集落は、昔からバス旅行やイベントなどで親睦を図ってきました。今年はバスで苗場山麓ジオサイト巡りをしようということで、ジオパーク推進室の協力のもと、森宮交通にバスの依頼、観光協会にジオガイドを手配して頂きました。

また、折角ジオサイトを巡るのだから、事前に勉強が必要だろうということで、役場の出前講座制度を活用し、ジオパーク推進室の佐藤雅一室長から、旅行の2週間ほど前の夜に公民館に来ていただき勉強会を開きました。大勢の住民が集まり佐藤室長の話に引き込まれました。

今回のツアーは卯之木→見玉公園→蛇淵の滝→切明→布岩→前倉トド展望台→龍ヶ窪というコースでした。

参加者は子どもから大人まで約55人。中型バス2台に分乗し、認定ガイドの石沢憲一郎さんと桑原悠さんのお二人に案内いただきました。天候は今一でしたが、大雨にもならず、楽しい研修となりました。



石落してガイドさんの説明を聞く

栄中学校職場体験

7月、栄中学校の職場体験で栄村歴史文化館「こらっせ」に中学2年の女子生徒が1名来てくれました。本人が「ジオパークのことをやりたい!」と、希望してのことです。

今回は職場体験ということで、実際に事務局で計画している、ジオサイトの看板の文面を考えてもらう業務を中心にお願いしました。さすがに日頃からジオパークについて勉強したり考えたりしているせいか、こちらが想定した時間よりもはるかに早く終わり、驚きました。

自分から学びたい、地域のことを知りたい、という気持ちは後々の人生にも響く、とても素敵なお気持ちだと思います。将来彼女のような人が、ジオパークの仕事に携わってくれたらと思わずにはいられませんでした。

今年栄村に設置する看板の内のひとつに彼女が書いた文面が掲載されます。判るように作成しますので、ぜひ探してみてくださいね。



解説看板の文面を考え中

ジオガイド研修

今年度2回目となるガイド研修は、7月23日、以下の3例を想定した救急手当の実技訓練を行いました。

- ①お客様が山を散策中、木の根にひっかかり、転倒して足首をくじいた。
- ②トレッキングコースを散策中、お客様がめまいや吐き気をもよおし、あぶら汗をかいている。
- ③事前に健康状態を確認したものの、ツアー途中にお客様が急に倒れ、心肺停止の状態になった。(自動体外式除細動器AEDの使用)

参加者は14人(認定ガイド)でした。例③については、毎回必修で実施するようにしています。捻挫や骨折は、ごく普通に起こりうる事故であり、夏季には熱中症がつきものです。経験豊富な十日町地域消防署南分署の署員から、適切な応急措置の説明を受け、リュックに入っているような新聞紙等を上手に活用するノウハウも学びました。



ジオガイドの皆さんと展望台草刈り



7月31日、晴天の中、さかえ倶楽部スキー場の第二リフト展望台の看板周りの草刈り、ボヤ刈りを栄村のジオガイドの皆さんと行いました。

参加者は事務局含め5名ですが、さすがジオガイド。精鋭揃いです。草刈り機とチェーンソーの音と共にどんどんと景色が見やすくなっていき、2時間足らずですべての作業が終わりました。

スキー場からは苗場山を含む山々と、栄村の千曲川から南側がほぼ全域、また、志久見川を境に津南町の河岸段丘面を望むことができます。栄村側と津南町側の地形の違いを確認するには一番のポイントかもしれません。

展望台にはさかえ倶楽部スキー場隣接の栄村国際絵手紙タイムカプセル館裏の道から、15分ほどで到着します。ぜひ足をはこんでみてください。

上郷小学校ジオツアー「無斑晶ガラス質安山岩をたずねて」

上郷小学校6年生と保護者のジオツアーが行われました。旧石器時代の石材として利用された「無斑晶ガラス質安山岩をたずねて」がツアーのテーマでした。まず、上郷上加用地内の約2.5万年前の旧石器時代の遺跡(加用中条A遺跡:現在は田)と石器の素材についての話の後、長瀬橋下の川原で、石器に利用された石探しを行いました。児童および保護者全員が無斑晶ガラス質安山岩を発見し、歓声をあげていました。

次に、栄村中野に位置しジオサイトである石器に利用された岩の露頭の見学をしました。悠久の昔から利用された石の不思議を感じる一時になりました。最後に、栄村歴史文化館こらっせにて地域の歴史と学校の変遷について学びました。

推進室としては、上加用の遺跡について地元の参加者が「知らなかった」という声を聞き、改めて地域のお宝についての啓発が必要だなと感じたところです。



こらっせにて

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

矢櫃村跡



所在地 栄村

種別 文化

悪天候などによる凶作が続く中、天明3年(1783)に浅間山が噴火しました。その火山灰は成層圏にまで達して気象にも影響を及ぼしたとされています。北半球全体で2～3年間冷夏が続き、さらに深刻な大凶作となりました。

これが天明の飢饉(1782～1787)と言われ、近世最大の飢饉とされています。

この大凶作は全国的なものでしたが、特に東北地方の被害が著しく、越後でも山間高冷地の頸城、魚沼地方で被害が大きく、救済の手が届かずに大秋山村と矢櫃村が廃村となりました。この2つの村は中津川の左岸、現在の屋敷集落と前倉集落の間にあったとされています。

矢櫃とは、弓矢の矢を入れる道具のことで、この村に平家の落人が矢櫃を隠したという伝説があり、このことから村の名前がついたと言われています。

また矢櫃村と対岸を結ぶ矢櫃橋が架かっていましたが、18年豪雪の際に崩壊してしまいました。

黒駒太子堂



所在地 栄村小赤沢

種別 文化

黒駒太子堂は、小赤沢集落にある聖徳太子を信仰の対象とするお堂です。お堂中には、聖徳太子を描いた掛け軸が安置されていました。

黒駒太子信仰は、聖徳太子が愛馬の黒駒で空を飛び、富士山を越え、信濃国まで行ったという伝説や、聖徳太子を観音菩薩の生まれ変わりだとする信仰から始まったとされています。

また、この信仰は、大工や木工職人が多く信仰したということもあり、秋山郷における木材利用との関連が強いと考えられています。

江戸時代の鈴木牧之による『秋山記行』にもあるように、このような奥山では冬季に人が死んだ場合、お寺に運ぶことも、僧侶を呼ぶこともできないため、この掛け軸を掛けて引導を渡す方法がとられていたようです。

引導を渡す：死者が現世への未練や迷いを断ち切って来世へと旅立てるように導くこと

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

津南中等教育学校1年生 総合学習でジオサイトを巡る

津南中等1年生は総合学習の一環として、前期にジオパークをテーマに学習を行いました。校内での事前学習後、1回目は、専門員2名による出前授業を行いました。その内容を聞き、現地へと赴くツアーが2班に分かれて開催されました。行くジオサイトやコースは、子どもたちによって選定されました。行きたい場所の調べ学習では、新聞も作成し、校内に掲示されました。

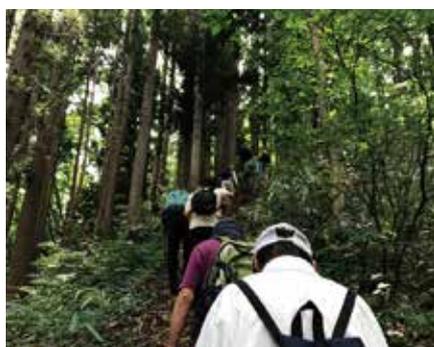
A班は、河岸段丘、沖ノ原遺跡、石落し、穴藤の古型マンモス臼歯化石発見地、見玉不動尊を回る、中津川の下流域を中心としたツアーでした。

B班は、猿飛橋、見倉橋、結東の石垣田、前倉橋、見倉の風穴、トチノキの原生林といった秋山郷を巡りました。ツアー終了後、行った先のことについてまとめる学習があり、夏季休暇中の課題として、苗場山麓ジオパークについてまとめることとなっています。



見倉橋を渡るB班

自然保護レンジャー・自然観察インストラクター合同研修



牧之の道をトレッキング

7月22日に長野県北信地域振興局環境課が主催する「栄村秋山郷探訪ツアー」が開催されました。ここ2年連続で長野県自然保護レンジャー、自然観察インストラクターの合同研修会としてジオサイト視察を行っており、今年は栄村の秋山郷を中心とした視察となりました。布岩山や天池から見える鳥甲山等、主に秋山郷の火山活動の歴史、秋山郷から津南に続く地形の成り立ちを中心に説明。参加者の中には何度も秋山郷を訪れた事のある方もいましたが、今回の案内で布岩横の風穴など、新たな発見が出来たと大変喜んで頂きました。ジオサイト巡りはバスの移動時間が長い為、車窓からの風景や集落にまつわる話など、車内マイクを使っての飽きさせない話題が必要で、今後はジオサイト以外の事もきちんと学び、伝えていきたいと感じました。

船津川たんけん隊！

農と縄文の体験実習館なじもんで開催した企画展「苗場山麓の川の生きものたち」(会期7/15～8/20)のワークショップ「船津川たんけん隊!～水生生物編～」が8月5日に行われました。

旧中津小学校の東側を流れる船津川は、太田新田にある湧水が源流とされ、途中でいくつもの湧水が流れ込み、下流では下島川と名前を変えて信濃川に合流します。水が豊富で水温が低く、バイカモ(都道府県によっては絶滅危惧種に指定)などの水草や様々な水生生物が生息している貴重な川です。

当日は、たくさん子ども達が参加し、指導員のもと水生生物を探して観察しました。数種類のヤゴやトビゲラ、カエルのほか、プラナリアやイワナの幼魚がたくさんいたことに子ども達も大喜びでした。指導員からこの生きものたちがどういう場所に生きられるかを学び、観察後は生きものを川に返しました。

これからもこの環境が維持されるよう、地元の人達と力を合わせ、子ども達にその大切さを学んでもらう手始めとしてこういった活動をしていきたいと思えます。



バイカモを踏まないように注意しながら

第3回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト作品募集開始

ジオサイトフォトコンテストを今年も開催いたします。このコンテストは、苗場山麓ジオパークの雄大な大地や人の暮らしをテーマにした写真コンテストです。詳しくはチラシ(津南町・栄村の役場、観光協会、その他施設などに設置)をご覧ください。また、苗場山麓ジオパークのホームページでもご覧いただけます。

応募締切は、平成29年12月28日17時(郵送の場合は同日必着)

最優秀賞には現金3万円が贈られ、その他に優秀賞3点(ジオ賞・エコ賞・カルチャー賞各1点)およびスマホ・タブレット賞、スポンサー賞10点などがあります。

入賞作品は、苗場山麓ジオパークPR用ポスターやパンフレットなどに活用させていただきます。

皆さん、ふるってご応募ください!お待ちしております!

